

アメリカでつかみとりたいこと

北海道登別明日中等教育学校 普通科 5 回生（高校 2 年） 濱 明日美

私はアメリカでやりたいことが 2 つある。それは、アメリカの幼児教育について知ることと、アメリカの人たちの学びの姿勢を知ることだ。

1 つ目についてだが、私には将来保育関係に就きたいという夢があり、進路もほぼ決めている。きっかけは自分自身が子どもを好きなことに加え、母の影響がある。母は過去に保育園や幼稚園で保育士としての仕事をしており、現在は小学校で放課後児童支援員として働いている。母は「この仕事は人の人生の基礎を作る最初の機関で、卒園する子どもたちを、頑張れと送り出せることが楽しい。どんな人に育つかワクワクする」と私に話してくれたことがある。この言葉で保育関係に興味を持った。

一方、世の中では保育士不足が起こっている。厚生労働省出典のグラフによると、2014年の段階で、約7.4万人不足しているとわかる。その上現代ではグローバル化が進み、たくさんの視野や学ぶ意欲が今よりも必要になってくる。私は、小中学校からグローバル化に対応するのでは遅いと思う。中学校2年生の時、香港出身の北海道大学に通う留学生のホームビジットをした時に、その留学生は英語や日本語がとても流暢だった。香港では幼稚園から英語教育をし、世界に対応する力が日本よりはるかに備わっているように思えた。保育士不足とグローバル化により、私は保育関係に進み、幼児教育で子どもたちに、日本だけではなく他国の言語や世界の価値観を知るきっかけを与えたい。

より良い保育者になるため、このホームステイプログラムで、日本とアメリカの幼児教育の違いを知りたい。ますますグローバル化が進む環境の中でどのように子供たちと接すれば良いのかを自分なりに見つけ出したい。私は中学校時代に新体操クラブでクラブ長を3年務めたり、高校では苫小牧市リーダー養成事業サマーキャンプの実行委員長をしたりなど、幼児から中学生の子どもたちをまとめてきた経験がある。この日本での経験も踏まえながら、違いを知るために、これから出会う現地の高校生に家庭や教育機関でどのような教育を受けてきたのかをたずね、ホームステイ先のホストファミリーには親・家族としてどのように子どもたちに接してきたのかを聞きたい。

2 つ目についてだが、私には「人生をかけて学び続ける」という人生のテーマがある。人は大人になって

も学び続ける人と、そうでない人に分かれる。一生学び続ける人をどう育てていくのかを、探究活動で考えるべきこととして設定している。このきっかけは母や母の知人、私が参加しているボランティア先の人たちだ。私と母はそれぞれボランティア活動をしている。ボランティア先の人たちは、大人になっても何歳になっても学び続け、学ぶために道内を飛び回っている人もいる。母は大人になっても学び続け、独学で保育士資格を取得し、母の知人には、定年退職後に札幌の大学院に通い始めた人もいと話を聞き、憧れから目標へと変わった。

私は視覚障がい者の音卓球ボランティアで、視覚障がいの方の試合の手伝いや対戦相手をしている。ここでは、周りの支えている人たちの温かさやつながりが感じられ、障がいとどう向き合っていくのかを考えさせられる。また、先日、室蘭市で行われたハタモクという会議プログラムに参加した。ハタモクとは、学生と社会人が働くことの意味や目的を考える団体のことである。ここでは大人からの意見として、大人になってから気づくこと、体験してから気づくことがたくさんあり、さらに進路変更をする人もいと聞いた。学び続けることは大人にも必要だと感じた。これからもハタモクの活動に参加し、これらの学びの探究は「マイプロジェクト」という高校生対象の探究型学習プロジェクトに提出するつもりだ。

私はアメリカの人たちに対し、いつになっても自分のポリシーを持ち続け、自分がやりたいことに本気で取り組んでいるイメージを持っている。そのため、実際にアメリカに行き、アメリカと日本の学びの姿勢の違いを知りたい。方法としては、リタイアメントホームの入所者に話を伺ったり、1つ目と同様に前出の高校生やホストファミリーにたずねたりしたい。

このホームステイプログラムで得た経験は、大学へ進み、未来の子どもたちが国際性豊かで学びに意欲的になれる環境にすると同時に、大人になってもし続ける探究活動に役立てていきたい。だから私はアメリカに行って、幼児教育や人々の学びについてつかみ取りたい。

